No.2026-070 新規
2026年11月

新規実施項目のお知らせ

謹啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
謹白

記

■ 受託開始日　　2026 年 11 月 11 日（水）ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード （旧項目コード）	検査項目 JLAC10	検体量 （mL）	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 （単位）	備考
OR610 6 （R610 9）	遊離 メタネフリン 2分画（血中） 4E041-0000-022-021	速やかに遠心 血漿 1.5	PN5 （C） ↓ A00 （X）	凍結 (28日)	5～12	❶ 585 ※5	ELISA	遊離メタネフリン 130以下 遊離 ノルメタネフリン 506以下 （pg/mL）	溶 裏面参照

※5：生化学的検査（Ⅱ）判断料

[OR610 6]遊離メタネフリン2分画（血中）の留意事項

・基準値は、褐色細胞腫のカットオフ値です。
・セロトニン・ノルアドレナリン再取込み阻害剤、三環系抗うつ剤、MAO阻害剤、L-DOPA、交感神経刺激剤等の薬物投与を受けた後の検体では、測定値に影響を与えることがありますのでご注意ください。
・ドパミン過剰産生腫瘍等により3-methoxytyramineが著しく高値の場合、遊離ノルメタネフリン測定値が偽陽性となり得ることからご注意ください。

● 遊離メタネフリン2分画（血中）

褐色細胞腫・パラガングリオーマのスクリーニング・機能確認診断に有用な検査です。

褐色細胞腫は副腎髄質、パラガングリオーマは副腎外の傍神経節に由来する神経内分泌腫瘍であり、両者を総称して褐色細胞腫・パラガングリオーマ（PPGL）と呼びます。PPGLでは腫瘍細胞からアドレナリンやノルアドレナリンなどのカテコールアミンが過剰に産生されるため、高血圧、頭痛、動悸、発汗などの症状を呈します。

腫瘍内で過剰産生されたカテコールアミンは、カテコール-O-メチル基転移酵素（COMT）によって遊離メタネフリンおよび遊離ノルメタネフリンに代謝されます。PPGLはCOMTの発現も豊富であることから、遊離メタネフリンおよび遊離ノルメタネフリンが持続的に分泌され血中濃度が上昇します。

本検査は、ELISA法により血漿中の遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリンを測定いたします。検体採取の容易さ、診断精度の高さからPPGLのスクリーニングまたは機能確認診断の補助として有用です。

▼検査要項

検査項目名	遊離メタネフリン2分画（血中）
項目コード （旧項目コード）	親：0R610 6（R610 9）　遊離メタネフリン2分画(血中) 子1：（U813 4）　遊離メタネフリン 子2：（U815 9）　遊離ノルメタネフリン
検体量	速やかに遠心 血漿　1.5 mL
容　器	PN5（C）→ A00（X）ポリスピッツ
保 存 方 法	必ず凍結保存してください
所 要 日 数	5～12 日
検 査 方 法	ELISA
基準値（単位）	遊離メタネフリン　130以下 遊離ノルメタネフリン　506以下　（pg/mL）
報告範囲（単位）	遊離メタネフリン：13未満、13～99900000　（pg/mL） 遊離ノルメタネフリン：30未満、30～99900000　（pg/mL）
桁数	有効3桁、整数8桁、小数0桁
検査実施料	❶ 585点 （「D008」内分泌学的検査「52」）
判断料	144点（生化学的検査（Ⅱ）判断料）
備　考	溶 測定値が上昇するおそれがあるため、空腹時に仰臥位にて20分間安静にした後に採血してください。 採血後、30分以内に血漿分離してください。 溶血、乳び検体でのご依頼は避けてください。

❶ア「遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画」は、褐色細胞腫の鑑別診断を行った場合に1回に限り算定する。本検査を実施するに当たっては、関連学会が定める指針を遵守し、褐色細胞腫を疑う医学的な理由を診療録に記載すること。
イ「メタネフリン」、「メタネフリン・ノルメタネフリン分画」、「ノルメタネフリン」又は「遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画」のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※　年内報告可能最終受付日は事前にご確認ください、年内最終受付日12月28日（月）となります。

●参考文献

柳瀬　里美，他：医学と薬学 77（1）：119～129，2020．（検査方法参考文献）
Tanaka Y, et al：Endocr J 61（7）：667～673，2014．（臨床的意義参考文献）